

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立神戸特別支援学校

活動の実際（単元名）

神戸甲北高等学校・書道Ⅲ「好きな文字を書いて、協力してカレンダーを作ろう」

指導目標

- ・本校であまり馴染みのない書道の授業を体験し書道への興味、関心を深める。
- ・甲北生と交流及び共同学習を通して、人間関係を構築するきっかけをつくる。

生徒の実態

全9名、知的障害の生徒である。しかし、ほとんどの生徒が、授業内容の説明を聞く姿勢ができており、教員が声かけや例などを示すと指示どおりの行動が出来る。

事前学習

神戸甲北高校の授業担当者からのパワーポイントの資料を使い、その日、「どこで、何をやる」のかなどを確認。また、一緒に授業を受ける甲北生の紹介と誰がペアになるのかを個別に視覚的に確認した。こちらの生徒の画像は前もって送付し、それを使って資料を作成してもらった。

学習活動（具体的な取組）

- ・リレー書道：本校生徒、甲北生、本校教員の3～4名1グループで一画ずつ半分に切った半紙に書いていき「心」の漢字を完成させる。これを2枚書く。
- ・本校生徒の好きな漢字一文字、または、書ける漢字や言葉を半分に切った半紙に書く。2枚書く。
- ・上半分が空白のカレンダーを飾り付けるために先ほど書いた作品から2枚選び、空白部分に貼り付ける。残りの空白部分は、色紙をちぎるなどして貼り付けた。

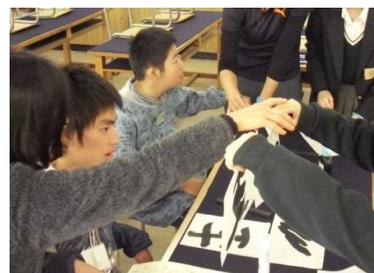
支援と留意点

- ・「どこへ、どういう線や点を打つか」を丁寧に示して、正しく書けるように促す。
- ・具体的に「名前」や「書いたことのある漢字」を例に上げて示し、選択できるように支援する。
- ・書き上げた作品を見るように促し、選択するように促す。

評価

ほとんど全ての生徒が、前向きにかつ積極的に取り組むことができた。神戸甲北高校の授業担当者も授業の流れを黒板にイラスト入りのプレートで視覚化して説明していたので、とても分かりやすく受けることができた。甲北生も初めは戸惑いながらも時間が経つにつれて本校生徒とのやり取りに慣れてきて、最後は、一緒に楽しむことができた。双方の生徒にとって減多にない機会だったと思う。これをきっかけに相互理解の機会が増えれば良いと思う。

活動の様子



リレー書道で書いたもの2枚、好きな文字を2枚書いて、計4枚から2枚を選んでいる。



選んだ2枚の作品を来年のカレンダーに貼り、余白は、色紙をちぎるなどして貼り付けて飾った。

事後学習

本校に戻った後、それぞれが、出来上がった作品を発表し合った。

成果と課題

授業前、多少の不安はあったが、本校教員と交流校の授業担当者と生徒の支援があり、本校生徒が楽しく積極的に取り組むことができたのは、大きな成果だった。

課題は、交流校の生徒にこちらの生徒の知的障害度の情報をもう少し伝えておき、事前準備を促しておくことである。